

応募を迷っている方、初めての応募を考えている方へ

自分の応募した作品が本当に選者に読まれているのか不安に思っていないですか。

「明治大学文学賞」は各選者がすべての作品を最後まで見て審査しています。

第1部門「倉橋由美子文芸賞」(小説)は、受賞者発表後に選者からのコメントを返却しています。普段から小説を書いているが何かが足りないと感じている方は、力試しに応募してみるのもよいかもしれません。選者からのコメントにヒントがあるかもしれません。最終学年までの毎年、新たな作品でチャレンジすることも可能です。受賞者には複数回応募者も増えております。

第2部門「阿久悠作詞賞」(歌詞)は学部を問わず、1年生から大学院生まで幅広い層の応募があります。

どちらの部門の応募も普段から創作活動を行っている学生ばかりではありません。全く別の分野で日々取り組んでいることが、創作にインスピレーションや新鮮さ説得力を与え、輝く作品が生まれることも多くあります。

下記に注意しながら、自己の実力を十分に発揮し他者の視点を持った学生らしい作品を募集しております。

■第1部門「倉橋由美子文芸賞」(小説) アドバイス

- ① 応募する前に必ず推敲を行ってください。誤字脱字は厳禁です。
- ② ありがちな作例として、大学・高校生活を多少不機嫌に描く作品や家族・親子を題材にした作品が例年多く見かけられます。そういった話題は自己の内省に留まることが多いため、数多ある作品の中で語り尽くされていて、題材として独自性を出すのが難しいと選者は指摘をしております。フィクションですので、想像力の広げ方や、視点の置き方、行動中心の文体など、普段いかに幅広い分野の本を読んでいるかも重要です。創作にあたっては取材が必要になる場合もあるでしょう。
- ③ 題名も重要視されております。題名で評価を落とした作品も過去にたくさんあります。本文の制作が完了した後も、題名を再検討してから応募してください。

■第2部門「阿久悠作詞賞」(歌詞) アドバイス

- ① 募集しているのは、詩 (poem) でなく、歌詞 (lyrics) です。曲を付けることを前提にして、音数と歌詞の区切りに注意して作詞してください。
- ② 想像力豊かな、かつ時代を的確につかんだ詞を求めています。課題タイトルから想像して作詞する【B】課題タイトル作詞方式もぜひチャレンジしてください。
- ③ 応募作品は1人3編までです。たくさんの作品を創作してその中から応募する3編を選ぶ、絞込みの作業も重要です。たくさんの作品を創作して、十分吟味してから応募してください。なお「阿久悠作詞賞」も本文と同様に題名も重要と考えています。

文学賞ウェブサイトに掲載の全体講評(昨年度)も併せてご覧ください。

今見ているあなたが今回の受賞者かもしれません。